

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	俄物（にわかもの）を通じてながの祇園祭への参加と伝統文化継承を促す事業
事業主体 (連絡先)	ながの祇園祭屋台運行実行委員会 事務局
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,632,960 円 (うち支援金： 1,088,000 円)

事業内容

市内の小学校に俄物の製作と祇園祭当日の曳きを依頼し、多くの子供達に直接祇園祭の盛上げに係わってもらいます。祇園祭終了後は、子供たちが作成した俄物を学校に展示し、伝統文化への取り組みを継続するほか、翌年は次の学年が製作に取り組んでいくような学校内での伝統を作る。俄物本体は実行委員会で用意し、子供たちに障子部分の絵を描いてもらい、自己表現の場と地域の伝統文化を考えるきっかけとしてもらう。祇園祭での俄物展示と巡行を通じて伝統芸能の継承を進める。



【俄物パレード】

【目標・ねらい】

- ① 子供に伝統文化に触れてもらう
- ② 子供に地域を知ってもらう
- ③ 子供に祭りを知ってもらう
- ④ 地域との共働

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

俄物作製に長野市内の小学校8校が参加。そのうち2校は2基作製。ながの祇園祭前日の宵山には8校10基を展示し、製作に携わった小学生や学校の先生などが多数見学に来てくれました。当日のパレードには10基巡行しました。俄物の曳き手として、約200名の生徒及び保護者の方が参加しました。俄物を各学校で一年間展示する予定でしたが、学校側のスペースの確保が問題で、市内の山王小、三本柳小、柳原小、昭和小の4校が展示してくれました。製作に参加した小学生にアンケートを実施。約85%の子供たちはながの祇園祭を知らなかったと回答。少なくとも、約200名の生徒が祇園祭を知ったと思います。

※自己評価【 B 】

【理由】
ながの祇園祭を市内小学生に知ってもらうことが出来た。町も俄物巡行を盛り上げる為共働してもらえた。文化芸術の伝承、郷土愛醸成など学校教育面での効果も期待できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

本年度俄物製作をしてくれた学校は来年も学校として製作に参加して貰うと共に、他小学校へも参加要請を引き続き実施する。ながの祇園祭の伝統と楽しさを若い人たちに感じてもらう為に、俄物製作と巡行を継続する事で祭りへの参加動機付けをし、ながの祇園祭を長野の一流ブランドにする。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある